

高等学校 保健体育科（保健）学習指導案

指導者 山下 勝也・新堀 稔文・世羅 晶子・橋本 直子・松本 茂・山持 陽

日時 平成 29 年 11 月 30 日（木） 第 5 限 13：20～14：10

場所 体育館玄関および校舎回り

学年・組 高等学校Ⅱ年 5 組 40 名（男子 24 名 女子 16 名）

単元 高齢者のための社会的取り組み

目標

1. 高齢者の心身の健康を支援するための社会的対策について学び、保健・医療・福祉の連携が重要であることを理解する。
2. すべての人が健康で安全に暮らすことができる社会づくりの重要性について理解するとともに障害のある人に対する補助・介助について学び、実践することができるようになる。

指導計画 （3 時間）

第一時 すべての人が暮らしやすい社会とは 1 時間

第二時 車椅子の操作・補助体験 1 時間（本時）

第三時 ブラインドウォークと前時のまとめ 1 時間

授業について

保健においては、教科書でノーマライゼーションやバリアフリー・ユニバーサルデザインが取り上げられている。また、差別や偏見のない「心のバリアフリー社会」の実現も必要である、と書かれている。しかし、車椅子の操作や補助の方法は取り上げられておらず、実際に操作・補助することは困難であると思われる。また、けがなどで車椅子を操作した生徒は若干名で大多数の生徒は車椅子に触ったこともない。少子高齢化や社会制度の変化などにより、福祉を学び、体験・共感する機会をつくる必要性が高まっている今日、福祉やボランティアの情報や技術を知り、行動できる人材の育成が必要である。今回は、今後けがをして車椅子を操作する時にためらいなく操作できるように、また、町で困っている車椅子使用者を見かけた時に「何かお手伝いできることありませんか」とためらうことなく声かけられるように、という目的で授業を構成した。今年度も、広島市社会福祉協議会より車椅子 10 台を借用して実習をすることとした。

なお、次時ではブラインドウォークを実施して視覚障がい者への理解を深めるとともに、補助（手引き歩行）の方法について学習する予定である。

本時の目標

1. 車椅子の操作・補助により、普段の生活では気付かなかったバリアを発見し、車椅子を使用して安全に移動する方法を理解する。
2. 車椅子使用者を怖がらせることなく安全に補助・介助できる操作方法を獲得するとともに「生きる力」や「福祉の心」を育む。
3. グループで気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができる。

本時の評価基準（観点／方法）

1. 車椅子の操作・補助により、普段の生活では気付かなかったバリアを発見し、車椅子を使用して安全に移動する方法を理解する。（知識・理解／活動観察・ワークシート）
2. 車椅子使用者を怖がらせることなく安全に補助・介助できる操作方法を獲得するとともに「生きる力」や「福祉の心」を育む。（思考・判断／活動観察／ワークシート）

学習課程

指導過程	学習活動	指導上の留意点
(導入) 出欠点呼 本時の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・集合 10 グループ ・本時の学習内容を把握し、課題を確認して見通しを立てる ・車椅子の操作と補助の仕方を実践して安全な操作方法を獲得するとともに、普段気づかなかったバリアを見つけよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分け ・出席確認，健康観察をする ・課題の確認ができているか
(展開) 操作方法の確認 学習プリント配布 ワークシート配布 実習上の注意 実習開始	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の構造と機能の確認 ・車椅子の広げ方と折りたたみ方 ・操作のしかた 進む方法・止まる方法 ・補助のしかた 上り・下り 段差の昇降 階段の上り下り 砂利道 ・バリアとなりうる場所の確認 ・バリアフリーの場所の確認 ・安全に留意して実習する ・校舎内に入らない ・大声でしゃべらない ・授業終了5分前に再集合する ・プリントに従ってさまざまな地点を操作・補助してバリアかどうかの確認をし、気づきをプリントに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラスト入り学習プリント「車椅子の操作方法」を配布 ・操作方法のプリントを読みながら操作・補助の仕方について理解しようとしているか ・校内の状況を想像，確認しながら実習の見通しを立てているか ・注意点をしっかり確認しているか ・必要に応じて，助言・補助 ・実習の進捗状況の確認
(まとめ) 本時の反省 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題の確認 ・次時の内容を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を達成できたか ・気づきを共有できているか
準備物：車椅子 10 台 ワークシート 学習プリント「車椅子の操作方法」 (「車椅子の操作方法」 http://home.c00.itscom.net/t2oho4no/fukusitaiken/kurumaisu/kurumaisu.htm)		

車いす補助&車いす体験

2017 高Ⅱ保健ワークシート

()組()番名前() ()組()番名前()

()組()番名前() ()組()番名前()

車いすは、傾斜や道路のでこぼこに敏感です。安全に留意して実習しましょう。

車いす補助&車いす体験のおすすめスポットを紹介します。
補助・体験した感想を書こう。

1. スロープの昇降を補助・体験したらどうだった？
2. アスファルト道路の端っこを補助・体験したらどうだった？
3. アカシア会館付近の木の根っこを越えて行こう。どうだった？
4. 研修館玄関横の砂利部分を補助・体験したらどうだった？
5. 3号館の廊下を補助・体験したらどうだった？
6. 3号館西側の障がい者用トイレを補助・体験したらどうだった？
7. 1号館玄関横または2号館西側のスロープを降りてみよう。どうだった？
8. そのほか、バリアフリーではない場所はどこ？気づいた場所とその状況を書こう。

・実習を終えてのアンケートに教えてください（当てはまる記号に○を）

1) 今後、町で困っている車椅子の方に「何かお手伝いできることはありませんか」という言葉をかけることができますか。

- a. 大いに思う b. 少しは思う c. あまり思わない d. 思わない

2) 今後、町で困っている車椅子の方の補助・介助をできると思いますか。

- a. 大いに思う b. 少しは思う c. あまり思わない d. 思わない

3) バリアフリーを実現するために自分はどんなことができるか，箇条書きにしよう。

社会福祉法人 広島市社会福祉協議会 会長様
社会福祉法人
広島市 区社会福祉協議会 会長様

広島大学附属高等学校

学校長 印
(組織の長をご記入下さい)

平成29 年度やさしさ発見プログラム事業報告書

プログラム名		
対象者・参加者数	<input type="checkbox"/> 小学生 年生(名) <input type="checkbox"/> 教職員 (名) <input type="checkbox"/> 地域住民 (名) <input type="checkbox"/> その他()(名)	<input type="checkbox"/> 中学生 年生(名) <input type="checkbox"/> 高校生 2 年生(202 名) <input type="checkbox"/> 保護者 (名) <input type="checkbox"/> 地区社協関係者 (名)
日時	平成29年11月28日(火) ～ 平成29年11月30日(木)	
場所	広島大学附属高等学校 敷地内	
実施内容	成 果	課 題
<p style="text-align: center;">体験学習 体験!</p> <p>講師名 【 】</p> <p>学習協力者(グループ名) 【 】</p>	<p>添付プリント・資料を元に、学校敷地内で車椅子の操作・補助を体験した。具体的な体験は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スロープの昇降 ・障がい者用トイレの出入り ・傾斜のある廊下の通行 ・30cm程度の段差の昇降 ・砂利道の通行 ・階段の昇降 ・その他のバリアの発見 	<p>実習時間が説明を含めて50分間で、借用した車椅子が10台で1台3～4人での操作・補助であった。操作・補助の方法は理解したもの、操作・補助の時間が十分とはいえず、車椅子に乗車した生徒が安心して身を任せることができる丁寧な操作ができなかった生徒が見られた。授業時数の確保との兼ね合いがあるが、あと50分間の実施時間が確保できれば、もっと丁寧な指導ができると思われる。</p>
<p style="text-align: center;">振り返り学習 発見!!</p> <p>*参加者の気づきを記入</p>	<p>授業後、以下のような感想が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スロープの昇降では下りが思った以上に怖い。上りは思った以上に力が必要。 ・障がい者用トイレに必要な機能の気付き ・少しの傾斜でもまっすぐ進まない。 ・砂利道は通行不可能 ・階段の昇降は、乗車者が安心できる補助の必要性 ・ちょっとしたでこぼこ道でもバリアになるなど 	<p>体験時間が短かった関係で、すべての個所を体験できなかったグループがあったこと。</p>
<p style="text-align: center;">まとめ学習 ほっとけん!!!</p> <p>*参加者の「活動希望」を記入 *どのような「ほっとけん」気持ちをもったかを記入</p>	<p>自由記述で自分にどのようなことができるか、という問いに、バリアを理解する・探す、障がい者のじゃまになることをしない、周囲に配慮する・声掛けする、スロープに物を置かない・障害物を取り除く、など多くの意見が寄せられた。また、「何かお手伝いできることはありませんか」という言葉かけをかけることができるか、という問いに、「大いに」が3割強、「少しは」が6割弱、回答した。</p>	<p>ユニバーサルデザインについて、さらに深く学習させる必要がある。</p>
資料等	車椅子体験・補助ワークシート, 学習プリント「車椅子の操作方法」	

実践上の留意点

1. 授業説明

広島市社会福祉協議会の「やさしさ発見プログラム事業」を活用させていただいて車椅子を10台借用することができ、1台あたり4人で実習するという環境を用意することができた。車椅子の操作方法の学習プリントを配布して確認させながら授業者によるデモンストレーションを観察させることで車椅子の操作・補助方法をまずは理解させることに努めた。

その後、車椅子の安全な操作・補助方法について体験させながらワークシートに従って校内を巡り、「優しくない施設設備」の内容に気づくように仕向けた。道路の僅かな凹みや段差、進行方向に対して横方向の僅かな傾斜がある道路の端や廊下、若干狭いスロープの昇降、階段の昇降等々、生徒は様々な気づきを共有することができたようであった。

ワークシートの「バリアフリーを実現するには自分はどうなことができるか」という問いに対して、バリアを理解する・探す、周囲に配慮する・声掛けする、スロープに物を置かない・障害物を取り除く等の回答、また、「何かお手伝いできることはありませんか」という言葉をかけることができるかという問いに対して「大いに思う」が3割強、「少しは」が6割弱の回答であった。

2. 研究協議より

今回は10グループに対して6名の教員で指導する態勢をとったことで適宜、助言・指導することができ、「自分が乗って操作すること」と「人を乗せて押してあげる」あるいは「押しってもらう」立場の体験をすることによって生徒は多くのことを学ぶことができた。しかし、説明を含めて50分間という実習では操作・補助の時間が十分とは言えず、車椅子に乗車した生徒が安心して身を任せることができる安全で丁寧な操作ができなかった生徒や校内の様々な検証箇所を体験しきれなかったグループも見られた。臨時時間割対応で2時間連続の特設授業をするなど検討する必要がある。

心肺蘇生法の実習でも同様の課題が指摘されたが、車椅子の操作・補助体験においても単発の実習で終わるのではなく、3年間の見通しの中で計画的に体験させること、また、避難訓練時にも車椅子使用者の避難誘導を組み入れて車椅子使用者の避難行動の補助・介助について考えさせることが必要であろう。保健の授業だけでは時間的にも難しく、特活やLHRを利用することや外部講師に依頼するなど、より充実させるための方策を検討しなければならない。

ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザインといった観点から日頃生活している学校の施設設備や自らの行動を検証する態度を養い、すべての人が暮らしやすい社会を構築するための主体者となりうる人材の育成を図りたい。

